

平成 27 年度 前学期
お茶の水女子大学 生活科学部 特別設置科目のご案内
(ECCELL 社会人プログラム)

前学期は、水・木曜の 11・12 限（18：20～19：50）に 1 科目ずつ、集中講義で 4 科目、合計 6 科目が開講されます。

【前学期】

水曜日：乳幼児教育・保育政策論Ⅲ
木曜日：現代保育課題研究Ⅱ
集中講義：実践音楽療法Ⅱ
集中講義：生活リズムと保育Ⅰ（新設科目）
集中講義：保育メディア論Ⅱ
集中講義：子ども家庭支援相談Ⅲ

新設科目について

待望の新設科目「生活リズムと保育Ⅰ」は、受講生アンケートなどでもご要望の多かった「乳幼児の栄養と食」がテーマです。ぜひご参加ください。

担当講師のご紹介

◆逆井 直紀 先生（「乳幼児教育・保育政策論Ⅲ」担当）

『保育白書』、月刊『保育情報』の編集・出版、各種研究集会の開催などを行っている保育研究所の常務理事として、全国の保育現場を歩き、保育者や保護者と対話しながら、最前線で発信を続けていらっしゃる先生です。

◆下川 英子 先生（「実践音楽療法Ⅱ」担当）

病院や療育施設の音楽療法士をつとめるかたわら、公立保育園巡回相談員など、保育の現場に音楽療法をいかすための活動を続けていらっしゃる先生です。

◆坂上 浩子 先生（「保育メディア論Ⅱ」担当）

NHKの幼児番組チーフ・プロデューサーとして「ピタゴラスイッチ」「いないいないばあっ!」「にほんごであそぼ」等を担当され、教育コンテンツ国際コンクール「日本賞」を通して、各国の教育番組にも精通していらっしゃる先生です。

◆坂井 滋和 先生（「保育メディア論Ⅱ」担当）

コンピュータグラフィックスを利用した科学映像や科学教養 TV 番組の制作に長年従事され、インターネットや電子ブック等の次世代メディアを活用した教育映像コンテンツや科学の可視化に関する教育研究を行っていらっしゃる先生です。

◆堤 ちはる 先生（「生活リズムと保育Ⅰ」担当）

妊産婦・乳幼児期の食育、児童福祉施設における健康・栄養管理システム構築がご専門で、厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」作成検討会の座長なども務められた先生です。

乳幼児教育・保育政策論Ⅲ

2 単位 水曜日 18:20～19:50

担当： 逆井 直紀（保育研究所 常務理事）

主題と目標

「乳幼児教育・保育政策論Ⅲ」（前期） 「乳幼児教育・保育政策論Ⅳ」（後期）

2015 年 4 月から、子ども・子育て支援新制度（以下 新制度）がスタートし、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。また地域では、子ども数の減少を受けて、幼稚園や保育所の統廃合が進行しているところもあれば、大都市部のように保育所の待機児童問題が深刻化しているところもあります。

今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになるかと予測されています。

実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。

前期授業では、非常に複雑な新制度の概要を理解することを中心課題にしますが、制度解説にとどまらず、子どもに関わる法令や、政策や制度に関わる基礎的・原理的な事項の理解を深めるとともに、政策・制度の歴史的な動向を整理します。

また、社会問題としてクローズアップされている子どもの貧困の問題や、大都市部で深刻な待機児童問題など、折々に保育の現状をリアルにとらえられるような情報等を織りこんで、抽象的な学びにならないような工夫をしていきたいと考えております。

後期授業では、講義ごとに、子どもをめぐる社会状況や、施設の統廃合問題や保育所の待機児童問題など乳幼児教育・保育に関わる種々の社会的、政策的問題をテーマとして採り上げ、多彩なゲストスピーカーによる講演や、実際の保育の場を見学するなど、今後の乳幼児教育・保育のあり方をともに考えあうような内容を構想しています。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

必要に応じてプリント等を配布します。

『保育白書』2014 年版 2500 円（税別） 発売 ひとなる書房

（開講時に割引購読の申込みを受け付けます。）

評価方法・評価割合

- 小論文（レポート） （割合： 40%）
- 出席 （割合： 20%）
- 発表 （割合： 40%）

授業計画**●前期／主な内容****保育所・幼稚園制度、基礎になる法令の概要とその意味**

憲法、子どもの権利条約、教育基本法、学校教育法、児童福祉法、子ども・子育て支援法、認定こども園法 など

戦後の保育政策史、制度の変遷

戦後直後の創設期、高度経済成長期、少子化による定員割など施設暫減期、保育所需要拡大期

保育所・幼稚園・認定こども園を支える基準と現状

児童福祉施設最低基準、幼稚園設置基準、国際的な状況との比較、規制緩和政策の影響

子ども・子育て支援新制度の概要とその論点

制度の概要、多様な保育施設・事業、公定価格・保育料と公費負担、認定と保育時間、事業計画等

子どもをめぐる状況の変化と保育政策

子育て世帯の実態、子どもの貧困、保育者の低処遇状況、待機児童問題、過疎地の保育、被災地の保育 など

学童保育制度の概要と課題

多様な子育て支援施策の概要と課題

●後期／主な内容

保育政策の最新動向（特徴的な問題をとりあげながら）を学びながら、制度・政策に求めるべき方向とその実現に向けた展望を考えます。

子ども・子育て支援新制度と、自治体行政の動向とその論点

保育所をめぐる規制緩和問題、待機児童問題、公立保育所の廃止・民営化、保育の市場化
幼稚園の状況

施設の統廃合と幼保の共用化、一体化、こども園

子育て支援にかかわる状況

困難を抱えた子どもたちや多様な家族を支える保育

保育施設の職場としての状況と保育政策

制度や条件改善を実現する展望 など

※なお本講座では、当面保育・幼児教育を保育と整理し、保育所や幼稚園にかかわる制度・政策を保育制度・政策と総称します。

学生へのメッセージ

保育に関わる制度や政策の問題を考えることは、一見、日常生活とのかい離があり、保育の現場でお仕事をされている方でも、敬遠しがちな分野です。

しかし、社会全体の保育水準の向上という課題を考えた場合、現場を支える制度や政策の充実なくしてその実現は不可能といえます。また、欧州などでは、人間の基礎を培う幼児期の重要性に着目し、すべての子どもに豊かな保育を保障することが、活力ある社会を作り出すことにつながるとして、公的保育の充実に政府が動きだしています。このことは、保育の制度や政策を学ぶことが、今後の日本社会を展望するための重要な課題であることを示しています。

この講座では、政策や制度・法令等の基礎やその動向を学ぶことと同時に、保育をめぐる起きている種々の問題状況を取り上げ論議する中で、子どものためによりよい保育を実現するための課題と展望を見出していきたいと思います。

授業日程

- ①4月8日（水）
- ②4月15日（水）
- ③4月22日（水）
- ④4月29日（水）※祝日ですが開講します。
- ⑤5月13日（水）
- ⑥5月20日（水）
- ⑦5月27日（水）
- ⑧6月3日（水）
- ⑨6月10日（水）
- ⑩6月17日（水）
- ⑪6月24日（水）
- ⑫7月1日（水）
- ⑬7月8日（水）
- ⑭7月15日（水）
- ⑮7月22日（水）

現代保育課題研究Ⅸ

1 単位 木曜日 18:20～19:50

担当： 浜口 順子（お茶の水女子大学大学院 教授）

主題と目標

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行ったり、読書会をするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人向きであるが、学生参加も可。

授業の形態

■講義 ■討論 ■講読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

評価方法・評価割合

- 出席（割合：50%）
- 発表（割合：50%）

授業日程

- ①4月9日（木）オリエンテーション
- ②4月16日（木）図書館利用講習会（予定）
- ③4月23日（木）ゼミ
- ④5月14日（木）ゼミ
- ⑤5月28日（木）ゼミ
- ⑥6月11日（木）ゼミ
- ⑦6月25日（木）ゼミ
- ⑧7月9日（木）研究発表会①
- ⑨7月16日（木）研究発表会②

実践音楽療法Ⅱ 2 単位 集中講義 5/23(土), 5/30(土), 6/27(土), 7/25(土)
担当： 下川 英子（埼玉療育園 音楽療法士）

主題と目標

主題：「保育・統合保育・特別支援教育に生かす音楽療法」

目標：子どもの音楽療法の視点から音楽の広がりを考え、障がいの有無に寄らず子どもの発信を受けとめ、コミュニケーションや自己表現を大切にする音楽活動を体験し、柔軟な即興力を身につける。

受講条件・その注意

受講条件はありませんが、動きやすい服装で参加してください。

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 ■実技 ■発表 ■演習

教科書・参考図書

教科書：音楽之友社「音楽療法・音あそびー統合保育・教育現場に応用する」下川英子（¥2400+税） その他、楽譜プリントやレジュメは随時配布する。

評価方法・評価割合

■ 期末試験（割合：40%） ■ 出席（割合：30%） ■ 発表（割合：30%）

授業計画

4 日間ともに講義と実技を並行して行います。

なお進行順序は若干のずれが生じる場合があります。

第 1 日目 5 月 23 日（土）9：00～16：30

- 音楽療法の歴史と概略。
- 乳幼児の楽器操作から見える発達ー上肢の操作、外界への気付き、模倣と逆模倣。
- 発達障害の音楽療法ー感覚統合、こだわりからの発展など。実技。

第 2 日目 5 月 30 日（土）9：00～16：30

- 肢体不自由児の音楽療法ー姿勢の工夫、道具の工夫。
- 発語を促す音楽療法ー要求の手段、声の仮面。
- 保育園での活動ー全体の中で個を生かす 1、グループの発想を生かす。実技。

第 3 日目 6 月 27 日（土）9：00～16：30

- 物語を創る子どもたちー被虐待児の物語、物語と音の出会い、物語に音をつける 3 つの方法。
- 自分でアレンジできる簡単な合奏法ー全体の中で個を生かす方法 2、ハンドベルやトーンチャイムを使って、カウンターラインなど。
- 実技グループ制作ー物語に音をつけよう。

第 4 日目 7 月 25 日（土）9：00～14：50

- 筋ジストロフィーの子どもたち、おとなたち。実技グループ制作ー身近な音探し。
- 期末試験(映像を見て記述する問題と、授業の感想など)。

学生へのメッセージ

能動的音楽療法は子どもの発するものを大切にして、表出を促したり、他者とのコミュニケーションを深めたりしながら、色々な問題の改善へ向けてゆきます。保育指針にも音楽療法の目的に近似した内容が書かれています。目ざましく発育・発達する子どもにも、ゆっくりな歩みの子どもにも、この時期に大切な物が何なのかを考えて行きましょう。この授業では毎回、音楽療法や統合保育、普通保育の現場の映像を見て考えるところから始め、皆さんと一緒に考え演習します。教師が教え込む音楽・そろえる音楽ではなく、子どもが主体となって表現する音楽・仲間とコミュニケーションをとる音楽の簡単な方法です。楽器(ピアノ)が得意ではないかたも、全く心配はいりません。おとなが柔軟な即興力を持つことが、子どもの発信に応えるひとつの鍵になると思います。

生活リズムと保育 I**1 単位 集中講義 6/6(土), 6/13(土)****担当： 堤 ちはる（相模女子大学 栄養科学研究科・健康栄養学科 教授）****主題と目標**

乳幼児期の栄養状態はその後の肥満、2 型糖尿病、高血圧や循環器疾患などと関連があることが近年報告されています。そのうえ、味覚や食嗜好の基礎も培われ、それらは将来の食習慣にも影響を与えるために、この時期の食生活や栄養については、生涯を通じた健康、特に生活習慣病予防という長期的な視点からも考える必要があります。

しかし、今日は食の外部化、朝食欠食、孤食や個食などの食習慣の乱れや、不適切なダイエットに起因する低体重（やせ）の増加など、健康を阻害する要因も多く存在し、その影響は小児にまで及んでいることから、子どもに関わる仕事をする者には、これらを認識し、解決していくことが求められています。

そこで本講義においては、妊娠期・授乳期から乳幼児期に至るまでの身体的、精神的特徴を理解した上で、食生活・栄養の課題を明確にし、それぞれ実際の場面に展開していきます。さらに、現場で子育てを支援する保育士や幼稚園教諭には何が求められているのか、また、その求めに応じられる人材となるために、どのような学びをしたらよいのかについても「保育の現場」の視点で考えていきます。

授業は、子どもの特性を活かした「食」の支援を行うために必要な基礎的知識・技術の修得と共に、自らの「食」に対する意識を高めるように進めていきます。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 ■演習

教科書・参考図書

プリントやレジュメを適宜配布する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート） （割合： 70%）

■ 出席 （割合： 30%）

授業計画6 月 6 日（土）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

- ①妊娠期・授乳期の食生活と栄養
- ②乳児期の食生活と栄養（1）
- ③乳児期の食生活と栄養（2）
- ④離乳食について（市販のベビーフードの試食を含む）

6 月 13 日（土）⑤9:00-10:30 ⑥10:40-12:10 ⑦13:20-14:50 ⑧15:00-15:45

- ⑤幼児期の食生活と栄養
- ⑥乳幼児期の食育（1）
- ⑦乳幼児期の食育（2）
- ⑧まとめ

学生へのメッセージ

日常的に繰り返されている食生活について改めて振り返り、また、食を通して育つもの、育てたいものについて考えていきます。さらに、子どもだけでなく、その保護者の食の支援もできるような力が身につくことも期待しています。

保育メディア論Ⅱ**2 単位 集中講義 8/7(金)～8/9(日)**

担当： 坂上 浩子（NHK エデュケーショナル こども幼児部 統括部長）
坂井 滋和（早稲田大学 理工学術院 教授）

主題

インターネットに代表される新しいメディアの普及によって、我々を取巻くメディア環境が大きく変化しつつある。本講義では、こうした状況の下で子どもたちのメディア・リテラシーの土台となる家庭や保育環境をどのように捉え、構築・実践してゆくかについて、乳幼児向けコンテンツ制作の専門家の立場から解説を行ない、受講者間の意見交換を通じて論考を深めてゆく。

目標

以下の項目を実践するために必要と考えられる基本知識の修得を目標とする。

- (1) 多様なメディアや情報ツールを子どもたち自身が有効に利用する事が出来るように、その特性・特徴を把握し、子どもたちにその適切な利用法を指導することが出来る。（子どもたちのメディア・リテラシーの涵養）
- (2) 様々なコンテンツの中から保育に有効と考えられるものを取捨選択し、その有効な利用法を考察・実践する。（コンテンツの適切な利用）
- (3) 次々と登場する新しいメディアや情報ツールの効果的な利用法について考察し、保育の現場でその実践を行う。（保育者自身のメディア・リテラシーの向上）
- (4) メディア・リテラシーの観点から、保育現場と家庭での望ましいメディアの在り方を考え社会に対する提言を行う。

受講条件・その注意

特になし。但し、授業内で提示されるテレビ番組等のコンテンツは聴覚／視覚障害者へのサポートは行われていない。また講義における個別の介助者の支援も困難なため、受講に支障が出る事が予測される。該当する方で受講希望者は予め大学当局とご相談ください。

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

3名のメディア分野の専門家の講義と受講者を交えたディスカッション（討論）によって構成される。

教科書・参考図書

特になし（必要に応じてプリントを配布する）

評価方法・評価割合

2通の課題レポート（前半、後半で各1回）の作成を行う。評価はレポートと出席回数および講義内で実施されるディスカッションでの発表を参考に以下の割合で行う。

■小論文（レポート）（割合：70%） ■発表（割合：15%） ■出席（割合：15%）

授業計画 （第1回～第7回：坂上講師、第8回～第15回：坂井講師）

- 第1回 子ども向けの「良い」コンテンツとは？～世界的議論VSあなたの考えは？～
- 第2回 乳幼児向けテレビ番組の「質」とは？
- 第3回 子ども番組の歴史は何を語るか？
- 第4回 子どもが「おもしろい」と思うもの、そして親は？
- 第5回 「教育的利用」とは何か？
- 第6回 学問的研究とメディア開発の最前線
- 第7回 コンテンツのアイディアと活用法・私たちの提言
- 第8回 映像メディアの子どもへの影響
- 第9回 新しいメディアの登場
- 第10回 ディスカッション：新しいメディアを如何に活用するか
- 第11回 セサミストリートが与えた幼児番組への影響
- 第12回 赤ちゃんはインフォメーション・シーカーである

- 第 13 回 子どもの成長・発達とメディア
 第 14 回 これからの社会、子どもとメディア
 第 15 回 ディスカッション：子どもとメディアの関係を考える

授業日程

8 月 7 日(金)①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30 ⑤16:40-18:10
 8 月 8 日(土)⑥9:00-10:30 ⑦10:40-12:10 ⑧13:20-14:50 ⑨15:00-16:30 ⑩16:40-18:10
 8 月 9 日(日)⑪9:00-10:30 ⑫10:40-12:10 ⑬13:20-14:50 ⑭15:00-16:30 ⑮16:40-18:10

学生へのメッセージ

最初の授業で、御自身の子ども時代のメディア体験で最も印象に残っているコンテンツ(番組やゲーム、映像作品、など)について伺いますので、思い出して、「何が印象的だったのか」をメモして来て下さい。(そのメモは提出していただく必要はありません)

【前半担当： 坂上 浩子 講師】

主題と目標 「子どもとメディア 過去・現在・未来」

世界的規模でメディアが急速に変容する現在、コンテンツ制作の場では、一方的にプロがつくって与える時代は終わり、ユーザーオリエンテッド(受け手が創作・発信元となる)の波がマルチ・プラットフォームで押し寄せている。では、複合的なメディア時代を生きる子どもたちの発達・発育において、必要なことは何だろうか?メディアに触れる・触れないと言った画一的な議論ではなく、コンテンツの質とコミュニケーションの関係、そして社会的・歴史的なマクロな視点での議論が必要なのは言うまでもない。そこで当授業では、家庭や保育現場でメディア・リテラシーの土台を如何につくっていくかについて、国内外の乳幼児コンテンツ制作の現状をひも解きながら考え、さらに視点を社会に広げて、メディアと子どもの良い関係をつくるための条件について、実践的考察を深める。

具体的には、まず、乳幼児向けのテレビ番組がどのような意図や過程でつくられて来たか、現在ではどのような状況にあるかを、教育的コンテンツを中心に把握する。そして歴史的に、子ども観の変遷や子育てなどの社会問題といかに結びついてきたかという点にも着目する。さらに、乳幼児の発育発達などの最近の研究とメディアの関係を取り上げ、最終的には、メディア・リテラシーの観点から、保育現場と家庭での望ましいメディアの在り方を考える。授業課題のアウトプットとしては、上記の視座から子どもをめぐるメディアの未来に向けて、個々の具体的提言ができるようにしたい。

授業計画 7 回分

(1) 講義内容

1、子ども向けの「良い」コンテンツとは?～世界的議論VSあなたの考えは?～

最近、メディアの国際コンクールで受賞している子ども向けコンテンツとは、どのようなものだろうか?現代の評価のポイントは、教育性、そしてメディアの特性を生かした適切な表現・工夫がなされているか否か、である。が、具体的にはそれはどういうことなのか?いくつかの国際コンクールの受賞作品を見て、どんな点で「価値がある」のか、意見を交し合う。

2、乳幼児向けテレビ番組の「質」とは?

多くの子どもが最初に出会うメディアは、「絵本」と「テレビ番組」である。メディア教育で重要な点はコンテンツの取捨選択と利用の仕方、これはどちらに対しても言えることである。では、どんな基準で取捨選択するか?多くの乳児に専念視聴される番組「いないいないばあ!」をとり上げ、対象児にきっちりと視聴されるための工夫について話し合い、「質」を判断する視点を獲得する。なお、出発点として、乳幼児向けテレビ番組とはどういうものか、ねらいや内容、制作過程などの特徴を把握することによって、「質」についての考察が深められるようにする。

3、子ども番組の歴史は何を語るか？

「質」の議論はテレビ幼児番組の 55 年の歴史にさかのぼる。子どもの生活上に画期的な変化を与えた昭和 30 年代を皮切りに量的増大はもちろん、技術革新を利用した先端商品として多様化、多メディア化を歩んできた。核家族化第 2 世代が子育て世代となった現代、子育て支援の役割をもつにいたっている。そして、IT 化の影響は乳幼児向け番組にも大きく及んでいる。技術革新や家族構造の変化とともに歩んできた子どもテレビ番組の歴史、そこにおける普遍性に着目する。

4、子どもが「おもしろい」と思うもの、そして親は？

調査では、1 歳児のテレビ接触時間は 3 時間 23 分で、そのうち専念視聴は 24 分。つまり「ながら視聴」が家庭では意外に多い。特に乳児の家庭では親がチャンネル選択権をもつため、親のメディア観は子どものメディア・リテラシーに大きな影響力を持つ。だが、子どもにとっては、テレビの視聴も「遊び」に他ならない。子ども自身が「おもしろい」と感じる番組やコンテンツとは何か？それは、大人の視点とどう違うのだろうか？

5、「教育的利用」とは何か？

教育的なコンテンツ利用とは何か？保育園・幼稚園での番組視聴は家庭とは違う意味を持つ。テレビ番組やデジタルコンテンツなどの映像メディアも教育素材のひとつと考え、適切に使うにはどうしたらよいか？絵本や紙芝居・人形劇などと並行してうまく使うには、それぞれのメディアの特徴をつかまねばならない。子どもの主体的な態度育成につながる利用の仕方について考え、番組クリップを題材に、具体的にいくつかの案を提起する。

6、学問的研究とメディア開発の最前線

大学や研究機関で人間の脳や認知にかかわる調査・研究が進められ、メディア・コンテンツの制作者側では、研究成果を取り入れた企画開発が進んでいる。また、世界の大学でも、メディアを研究するだけでなく、コンテンツを自らつくるなどの動きも現われている。特に子どもの発達・発育の視点から見た場合、研究とメディア開発の連携で期待できることは何だろうか？放送だけでなくインターネットなどのデジタル・メディアの具体的な例をもとに、技術先行で発展しがちな現代における成果と課題、著作権の観点や子どもが利用する際の問題も含めて考える。

7、コンテンツのアイデアと活用法・私たちの提言

メディア・コンテンツは様々な作り手側の意図によって作られ、また、それは社会的産物であるとともに、「受け手」との相互作用によって豊かなコンテンツの質と利用が成り立つことを把握した。では、将来、さらに変わって行くであろうメディア・コンテンツを、子どもたちがうまく生活に取り入れていくには何が必要か？

「子どもメディア・こんなものがあつたらいい！」：具体的内容と使い方についてについて意見を出しあい、子どもの能動性、周囲の大人の役割をポイントとして、アイデアを提起する。

子ども家庭支援相談Ⅲ

1 単位 集中講義 7/11(土), 7/12(日)

担当： 安治 陽子 （お茶の水女子大学 特任講師）

主題と目標

子どもと家族は、保育の場と家庭を行き来し、その両方を基盤として生活し、さまざまなことを経験しながら成長している。日々の生活の中には変化や波があり、それまでの親子の歴史や現在の課題、保育のあり方などと複雑に絡み合っており、その育ちと課題はそれぞれに多様な表れ方を示す。日々の保育実践の中で、このような子どもと家族にかかわり、親子の発達と適応を支援していくことは、今後ますます必要とされる保育者の専門性である。子どもと家族の支援にかかわる理論および技法について、子どもの発達や家族機能のアセスメント、相談支援、他機関との連携なども視野に入れながら、実践的に学ぶ。

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

教科書・参考図書

授業で紹介する。

評価方法・評価割合

- 小論文（レポート）（割合：50%）
- 出席（割合：20%）
- 討議（割合：30%）

授業計画**子どもと家庭をめぐる状況**

- ①子どもと家庭をとりまく社会状況と保育
- ②子どもの発達をめぐる課題—「気になる子ども」と発達障害
- ③親の育児不安とストレス
- ④子ども虐待の現状と対応

相談・支援の実践

- ⑤子どもの発達アセスメントと相談—子どもの困り感を理解し支援につなげるために
- ⑥家族機能、社会資源のアセスメントと相談—親との関係構築と社会資源の探索
- ⑦ケース検討の方法
- ⑧機関連携の実践

学生へのメッセージ

乳幼児を持つ親の思いを聴くこと、親をサポートすること、親子の関係性を支援することは、今の子どもの育ちにとって重要なだけでなく、中長期的にも大きな意味を持ちます。乳幼児期の親子をどのように理解し、支援していけるか、現場に即してともに考えていきましょう。

授業日程

- 7 月 11 日（土）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30
 7 月 12 日（日）⑤9:00-10:30 ⑥10:40-12:10 ⑦13:20-14:50 ⑧15:00-15:45